

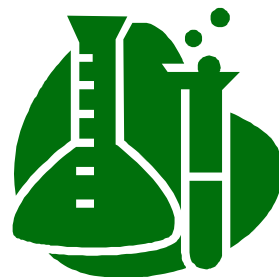
平成26年度北海道立工業技術センター研究成果発表会

北海道立工業技術センターでは、地域企業の技術の高度化や新製品開発の支援を目的に、地域のニーズに根ざした数々の研究開発をはじめ、技術相談、依頼試験・分析、研修会などの事業を行っています。

当センターの研究開発の成果を多くの皆様にご理解頂き、尚一層のご活用を頂くために、研究成果発表会を下記の日程及び内容で開催します。

多数の皆様のご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

記



日時：平成26年5月27日(火) 13:30～17:20 (17:40～交流会)

会場：ロワジールホテル函館
函館市若松町14-10 (TEL 0138-22-0111)

申込方法：下記の参加申込書により、FAX 又は E-mail でお申込みください。

申込締切日：平成26年5月21日(水)

参加費：無料 (交流会※:3,000円)

※ご来場いただいた皆様方と当センター研究職員等との意見・情報交換の場として、発表会終了後に交流会を開催いたしますので、お気軽にご参加ください。

尚、交流会にご参加の場合、会費3,000円を当日会場にて申し受けますが、申込締切日以降はキャンセルできませんので御注意ください。

定員：100名

申込先：〒041-0801 函館市桔梗町379番地 北海道立工業技術センター内
(公財)函館地域産業振興財団 企画事業部企画調整課
TEL 0138-34-2600 FAX 0138-34-2601
E-mail: sugisaki@techakodate.or.jp

「平成26年度北海道立工業技術センター 研究成果発表会」参加申込書

(公財)函館地域産業振興財団 企画調整課 行 FAX: (0138) 34-2601

企業・団体名

所在地

TEL

FAX

所属部署・役職	出席者氏名	成果発表会	交流会
		出・欠	出・欠
		出・欠	出・欠
		出・欠	出・欠

※ご記入いただいた個人情報は、参加者の取り纏めや連絡等、それ以外の目的には使用いたしません。

*** * * * * 研究成果発表会プログラム * * * * ***

13:30～13:35 **開催挨拶**

13:35～13:45 **事業概要説明**

13:45～14:10 **1. 未利用海藻ダルスに新たな価値 —商品開発に役立つ特有の食品科学的機能—**
木下康宣(食産業技術支援グループ)

コンブの養殖ロープに自然繁茂する海藻にダルスがある。これは紅藻に分類され、通常赤紫色を呈しているが、特定の処理を行うと緑色化し、120℃で加熱しても退色しないことを見出した。この知見を活かした利用方法を提案する。

14:10～14:35 **2. FISHFC法による迅速細菌検査システムの開発と食の安全保障への応用**
大坪雅史(食産業技術支援グループ)

結果判定に最低24時間を要する食品の細菌検査の迅速化に取り組んでいる。様々な食品検査に適応可能で最短6時間以内に結果判定な検査システムの商品化に、農林水産省の支援を受けて着手しており、その内容と今後の展開について報告する。

14:35～15:15 **3. DNA分析によるコンブ類の原産地判別技術の開発と**

検査キットの製品化に向けた取り組み

清水健志(食産業技術支援グループ)、
八十川大輔(道総研 食品加工研究センター)、原口浩幸(㈱ファスマック)
原産地判別技術が様々な食品素材で開発され、ブランドの保護に利用されている。地域特産物であるコンブ類のブランドを「守る・育てる」ことを目的に開発した原産地判別技術と技術普及への取り組みをご紹介します。

15:15～15:40 **休憩・展示・試食**

【試食】ダルス試作品、がごめの滴、コンブ加工品、クルマバソウアイスクリーム
【パネル展示等】函館ハーブ研究会の取組、シャーベットアイスによる魚介類鮮度保持、
生椎茸自動選別装置、光学的特性による水産物の品質評価 など

15:40～16:05 **4. 水中無線技術の研究開発と応用事例～「魚の健康診断」**

村田政隆((ものづくり技術支援グループ)
水中の無線技術はなかなか進捗しづらい研究開発分野だが、陸上利用での快適性・利便性を考えれば、今後発展する可能性を秘めている。今回、バイオセンサーによる魚のリアルタイムモニタリングの研究事例を交え、水中無線にかかわる取り組みについて紹介する。

16:05～16:30 **5. ホタテ貝殻から創製した食品及び医薬品用物理—化学的識別物質**

下野 功(ものづくり技術支援グループ)
光るホタテの貝殻から創製した素材は、単にカルシウム強化を目的とする健康補助食品用の添加物にとどまらず、偽造を抑止するための識別物質として役立つことが期待される。本発表では、この素材の新たな使い方について提案する。

16:30～16:55 **6. ドライプロセスによる無機EL用蛍光体への薄膜コーティング**

菅原智明(応用技術支援グループ)
無機EL用蛍光体の高性能化を実現するため、真空応用のドライプロセスを用い、蛍光体粒子の表面に薄膜をコーティングした。酸化物、窒化物のスパッタ成膜技術、蛍光体への均一コーティング、薄膜評価について発表する。

16:55～17:20 **7. 函館発の海洋計測機器「デジタルXBT(投げ込み式水温水深計)」の研究開発**

村田政隆((ものづくり技術支援グループ)、鉄村光太郎((株)エスイーシー)
1960年代にアメリカで開発されたXBTは、現在の海洋観測に必要不可欠な計測機器だが、時代とともに深海への対応や高精度化が求められてきた。今回、函館で研究開発が進む時代のニーズを反映した汎用型デジタルXBTについて報告する。

17:20 **終了**

17:40～ **交流会**